

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	観光まちづくりにおける地域遺産の成立と発展
Title(English)	Establishment and Evolvement of Local Heritage System in Community Development through Tourism
著者(和文)	津々見崇
Author(English)	TAKASHI TSUTSUMI
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:乙第4187号, 授与年月日:2021年12月31日, 学位の種別:論文博士, 審査員:十代田 朗,中井 検裕,齋藤 潮,土肥 真人,真野 洋介
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:乙第4187号, Conferred date:2021/12/31, Degree Type:Thesis doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

(論文博士)
(Dissertation Doctorate)

論 文 要 旨 (和文2000字程度)

Dissertation Summary (approx. 2000 characters in Japanese)

報告番号 For administrative use only	乙 第 号	氏 名 Name	津々見 崇
<p>(要 旨)</p> <p>(Summary)</p> <p>本論文は、「観光まちづくりにおける地域遺産の成立と発展」と題し、全8章で構成されている。</p> <p>第1章「序論」では、研究の背景と目的、既往研究の概括と本研究の位置付け、地域遺産等の用語の定義、研究の構成・方法を示している。研究の背景として、現代のオルタナティブ・ツーリズムの進展の中で、より真正な地域の姿が観光対象として重要化していること、また地域主導で地域資源の発見・評価や保存・活用を行う地域遺産活動が全国で取り組まれていることを挙げている。そうした全国各地の地域遺産活動を実証的に分析することで、「地域遺産成立・発展システム」モデルを構築し、さらには観光まちづくりにおける地域遺産活動の役割を明らかにすることを研究の目的としている。</p> <p>第2章「観光まちづくりの段階論にみる地域遺産マネジメントの取組みの位置付け」では、まず諸文献での観光まちづくりの段階論における地域遺産マネジメントの取組みの位置付けを分析し、地域遺産マネジメントには6段階があることを提示している。また、発見・調査や評価・認定、活用への言及が多い反面、資源の管理保護が切り離される傾向があり、その解決に地域遺産が貢献できる可能性を示している。さらに観光資源として地域資源活用は重要だが、観光対象となるためには観光マーケティングが必要であることを考察している。</p> <p>第3章「地域遺産の成立と取組みの特徴」では、全国 32 地域の地域遺産および地域遺産活動に対し、主にアンケート調査とその回答データを用いた数量化理論Ⅲ類・クラスタ分析によりタイプ分類した上で、遺産の発見・評価や保存・活用といった地域遺産マネジメントとの取組みの特徴を分析している。その結果、まず選定される資源の種類は文化財よりも幅広いこと、まちづくりとの関連が強く、選定基準では客観的なものよりも愛着や地域らしさの継承が重視されていることを明らかにしている。また目的や選定基準を元に3タイプに分類でき、開始時期や地域特性、景観政策との関連性があることを解明している。さらに民間団体の事例研究より、地域遺産を通じ新たな評価や刺激を期待する場合、選定基準を過度に厳密にせず自薦を推奨することで多様な推薦を集められ、選定に向けて議論することで地域遺産の意義が深まることを明らかにしている。</p> <p>第4章「地域遺産の保存・活用とその多様化」では、活動期間が長い3地域（岩手県二戸市、新潟県長岡市、静岡県沼津市）を対象として、行政計画を対象としたテキスト分析および自治体の担当部局への対面調査により保存・活用の継続・多様化の要因について分析している。その結果、まず対象地域での取組み内容は周知・学習・参加・支援と幅広く、特に周知は殆どの地域で見られ、選定後2年後からは新規活動が少なくなることを明らかにしている。次に行政計画において地域遺産は、初期は愛着や誇りの醸成を目的に活用され、長期的には観光活用が企図され、資源の価値や地域自体の地域外への宣伝が試みられるこ</p>			

とを示している。特に住民が参加しやすい活動から始めたことで地域遺産への愛着が醸成され、遺産の磨き上げや宣伝に繋げることができたと考察している。また、3、4章の比較分析より、民間団体は活動を小さく始めて根気強く育成すること、行政団体は地域遺産の成立と発展を接続する総合的構想を持つことが肝要であることを導き出している。

第5章「奄美遺産の成立システムの構築および深化過程」では、第2章で提示した地域遺産マネジメントの6段階を用いて、鹿児島県奄美市他の「奄美遺産」に関して、過去30年間あまりの行政文書や観光パンフレット類、新聞記事等の資料および関係者へのヒアリング調査により、奄美遺産に関する成立や深化の過程について分析している。その結果、エコミュージアム概念の導入や世界自然遺産登録運動と連動する政策・計画が下地になっていることや、奄美遺産の成立過程では主観的・客観的価値の両方を導入し、集落一市町村一奄美遺産の多層構造を生み出したこと、観光商品への展開など他分野との接続を意図していたことを解明している。その上で奄美遺産の成立および深化過程を「奄美遺産成立システム」として整理し、その特徴を明らかにしている。

第6章「奄美遺産の観光振興への接続と観光まちづくりへの発展」では、第5章に引き続き「奄美遺産」を対象に、観光振興への接続について市の行政計画、市内2地区の観光まちづくりプロジェクト、世界自然遺産登録運動との関係から分析している。その結果、笠利地区では集落遺産を観光資源とし、着地型観光へ接続して、奄美遺産発展システムが構築されているが、住用地区では世界自然遺産登録運動の中で地域資源の発見・調査や評価が行われる等、地区間での違いがあることを示している。その上で「奄美遺産発展システム」として整理し、その特徴および観光まちづくりへの展開可能性について明らかにしている。

第7章「総合的考察」では前章までの分析結果を用い、地域遺産活動を通じた観光まちづくりについて、「地域遺産成立・発展システム」モデルを構築し、その運用における要点を整理し、そのあり方と課題を検討している。

第8章「結論」では、各章で得られた成果をまとめるとともに、今後の課題について述べている。

以上を要するに、本論文は、全国の地域遺産活動の成立および発展過程を分析することを通じて、地域遺産の発見・評価と保存・活用ならびに観光に展開させることで可能となる、オルタナティブ・ツーリズム時代の観光まちづくりの方法論を示したものである。

備考：論文要旨は、和文2000字と英文300語を1部ずつ提出するか、もしくは英文800語を1部提出してください。

Note: Dissertation summaries must be written in either of the following formats: (A) both in Japanese (approx. 2000 characters) and in English (approx. 300 words), or (B) in English (approx. 800 words).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ（T2R2）にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Important: Dissertation summaries will be published online on the Tokyo Tech Research Repository (T2R2). Do not include information treated as confidential under certain circumstances.

(論文博士)
(Dissertation Doctorate)

論 文 要 旨 (英 文) (300語程度)

Dissertation Summary (approx. 300 words in English)

報告番号 For administrative use only	乙 第 号	氏 名 Name	津々見 崇 Takashi TSUTSUMI
<p>(要 旨) (Summary)</p> <p>This study considers how to connect the local resources from exploration and evaluation to conservation and utilization, by proposing the establishment and evolvement system of the local heritage.</p> <p>Chapter 2 examines the local heritage management steps in terms of the community development through tourism by comparing to the previous studies. Chapter 3 analyzes activities of exploration, evaluation, conservation and utilization by 32 regions and shows the characteristics of local heritages by private groups through a case study. Chapter 4 shows the characteristics of local heritages by the local municipalities that have continued their activity for more than three years, from the point of view of continuity and diversification of the activities.</p> <p>In chapter 5 and 6, a case study on the Amami heritage in Kagoshima prefecture is conducted to consider how they established and evolved it, and how the local heritage system connects to the tourism development. Chapter 5 reveals the history of the Amami heritage since the locals took the idea of eco-museum into the region in 1990s, and how they established the local heritage system as a part of the Basic Scheme for Historic and Cultural Properties in 2011, as well as its developing process after the establishment, by using the analysis of official documents and local newspapers and interviewing survey. Chapter 6 studies cases of tourism development projects in two settlements in Amami city and indicates their difference in terms of evolving the system of local heritage and its sustainability. A comparative study to the policies for registration of the world natural heritage of the UNESCO is also conducted and it explains the relationship between local heritage and world heritage in Amami.</p> <p>In Chapter 7, this study proposes the establishing and evolving system of the local heritage in community development through tourism by integrating all the results revealed in the precedent chapters. Chapter 8 concludes the study.</p>			

備考：論文要旨は、和文2000字と英文300語を1部ずつ提出するか、もしくは英文800語を1部提出してください。

Note: Dissertation summaries must be written in either of the following formats: (A) both in Japanese (approx. 2000 characters) and in English (approx. 300 words), or (B) in English (approx. 800 words).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ (T2R2) にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Important: Dissertation summaries will be published online on the Tokyo Tech Research Repository (T2R2). Do not include information treated as confidential under certain circumstances.